国際トータルファッション専門学校　シラバス

科目名	アパレルデザインⅢ				
担当教員	松田　大		実務授業の有無	○	
対象学科	ファッションデザイン科、 ファッション専攻科、 トータルファッション科	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	40時間
授業形態	対面授業のみ	対面授業と遠隔授業の併用		遠隔授業	
授業概要、目的、授業の進め方	コンペ入選を目指し、アパレルデザインⅠ・Ⅱで習得したデザイン発想力と表現力を用いて描き込みを行う。				
学習目標（到達目標）	コンペ入選を目指し、徹底的な描き込みと発想力を学習する。新人・名古屋で入選・地方コンペで上位入賞・海外コンペ挑戦。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	デザイン発想とコンペの傾向について	講義・最近のコンテストの入選傾向や素材の使用・加工などについて過去のコンテストグランプリ作品などについて解説
2	デザイン下描き中間チェック	スケッチブックにデザイン下描き１０体宿題中間チェック
3	デザイン素材制作・デザイン出し①	デザインチェックを基に素材作り加工を行い各自デザイン画作成５枚
4	デザイン素材制作・デザイン出し②	デザインチェックを基に素材作り加工を行い各自デザイン画作成５枚
5	デザイン素材制作・デザイン出し③	デザインチェックを基に素材作り加工を行い各自デザイン画作成５枚
6	ファッションショー用デザイン画作成①	夏のイベントファッションショー用デザイン出し
7	ファッションショー用デザイン画作成②	夏のイベントファッションショー用デザイン出し
8	雑貨デザインコンテストデザイン出し	雑貨のデザインコンテスト対策Ｄ画下描き
9	ナゴヤコンテストデザイン出し①	ナゴヤコンテストに向けたＤ画描き
10	ナゴヤコンテストデザイン出し②	ナゴヤコンテストに向けたＤ画描き
11	ナゴヤコンテストデザイン出し③	ナゴヤコンテストに向けたＤ画描き
12	ナゴヤコンテストデザイン出し④	ナゴヤコンテストに向けたＤ画描き
13	新人デザイナーコンテストデザイン出し①	新人デザイナー入選に向けたＤ画描き
14	新人デザイナーコンテストデザイン出し②	新人デザイナー入選に向けたＤ画描き
15	新人デザイナーコンテストデザイン出し③	新人デザイナー入選に向けたＤ画描き
16	新人デザイナーコンテストデザイン出し④	新人デザイナー入選に向けたＤ画描き
17	海外コンテストデザイン画出し①中国・イタリアコンテスト	海外コンテストデザイン出し
18	海外コンテストデザイン画出し②中国・イタリアコンテスト	海外コンテストデザイン出し
19	海外コンテストデザイン画出し③中国・イタリアコンテスト	海外コンテストデザイン出し
20	海外コンテストデザイン画出し④中国・イタリアコンテスト	海外コンテストデザイン出し

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
実技課題９０％、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	課題を毎週提出し技術力の向上を図る。また課題評価。評価の高い課題の解説を行う。

実務経験教員の経歴	教員歴２１年

国際トータルファッション専門学校　シラバス

科目名	アパレルデザインⅢ				
担当教員	松田　大		実務授業の有無	○	
対象学科	ファッションデザイン科、 ファッション専攻科、 トータルファッション科	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	40時間
授業形態	対面授業のみ	対面授業と遠隔授業の併用		遠隔授業	
授業概要、目的、 授業の進め方	卒業制作に向けたデザイン出しと洋服の製作				
学習目標 （到達目標）	コンペ入選を目指し、徹底的な描き込みと発想力を学習する。新人・名古屋で入選・地方コンペで上位入賞・海外コンペ挑戦。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	卒業制作ファッションショーに向けたデザイン出し①	卒業制作に向けたデザイン画の制作を行う
2	卒業制作ファッションショーに向けたデザイン出し②	卒業制作に向けたデザイン画の制作を行う
3	卒業制作ファッションショーに向けたデザイン出し③	卒業制作に向けたデザイン画の制作を行う
4	オリジナルブランドデザイン企画①	自分のブランドを企画しデザイン画を描く。ブランドコンセプトマップ作り
5	オリジナルブランドデザイン企画②	ブランド企画書制作
6	オリジナルブランドデザイン企画③	ブランド企画書制作
7	オリジナルブランドデザイン企画④	ブランド企画書制作
8	オリジナルブランドデザイン企画⑤	ブランド企画書制作
9	ブランド企画書　プレゼンテーション審査	ブランド企画書を基にプレゼンテーション審査を行う
10	海外コンテストＤ画制作	海外コンテストへ向けたデザイン画の作成
11	海外コンテストＤ画制作	海外コンテストへ向けたデザイン画の作成
12	海外コンテストＤ画制作	海外コンテストへ向けたデザイン画の作成
13	卒業作品Ｄ画作成１	３年間のまとめ。Ｄ画自由課題の作成
14	卒業作品Ｄ画作成２	３年間のまとめ。Ｄ画自由課題の作成
15	卒業作品Ｄ画作成３	３年間のまとめ。Ｄ画自由課題の作成
16	卒業作品Ｄ画作成４	３年間のまとめ。Ｄ画自由課題の作成
17	卒業作品Ｄ画作成５	３年間のまとめ。Ｄ画自由課題の作成
18	卒業作品Ｄ画作成６	３年間のまとめ。Ｄ画自由課題の作成
19	卒業作品Ｄ画作成７	３年間のまとめ。Ｄ画自由課題の作成
20	Ｄ画プレゼンテーション審査	３年間のまとめ。Ｄ画のプレゼンテーション審査

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
実技課題９０％、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	課題を毎週提出し技術力の向上を図る。また課題評価。評価の高い課題の解説を行う。

実務経験教員の経歴	教員歴２１年

国際トータルファッション専門学校　シラバス

科目名	アパレル実習Ⅲ				
担当教員	神戸　悠太		実務授業の有無	○	
対象学科	ファッションデザイン科、 ファッション専攻科、 トータルファッション科	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	7	時間数	140時間
授業形態	対面授業のみ	対面授業と遠隔授業の併用		遠隔授業	
授業概要、目的、授業の進め方	1.売り場に合わせた商品展開と企画 2.工場生産での適切な指示、原価計算 3.売り場へ商品が並ぶまでのプロセスの体験と本物の売り場へ自分たちの商品が並ぶ責任を学ぶ				
学習目標 （到達目標）	売り場への商品展開を目的として、職出しの知識と原価から上代設定、下代の仕組みを学習し、売れる商品を企画するノウハウと、商品化までのプロセスを学ぶ				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	作図道具・縫製道具				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ハンガーイラスト・指示出し	企画アイテムの正確なハンガーイラストと仕様の決定
2	ハンガーイラスト・指示出し	企画アイテムの正確なハンガーイラストと仕様の決定
3	生地・商品リスト決定	生地チェックを受け、フルラインナップの一覧作成
4	１stパターン作成	パターンチェック
5	１stサンプルチェック	仮縫いチェック：半身・代替生地
6	パターン修正	パターンチェック
7	2nd仮縫い	裁断・芯貼り
8	2nd仮縫い	組み立て①
9	2nd仮縫い	組み立て②
10	2ndサンプルチェック	仮縫い最終チェック
11	パターン修正	パターン・仕様・生地修正
12	2ndパターン作成	パターンチェック
13	職だし	仕様書作成
14	製品納品	検品・仕上げアイロン
15	上代決定	上代会議、ディスカッションで上代決め
16	プロモーション撮影①	撮影・ロケ・モデリング・スタイリング実習
17	プロモーション撮影②	撮影写真セグメント・商品リスト作成
18	販売ロールプレイング	接客ロールプレイング実践授業
19	ディスプレイ決定	ディスプレイレイアウト会議
20	実践販売	店頭にて実際に接客実践

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
課題：パターン/仕様書 パターン正確性40%、仕様書正確性40%、学習意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	二年間で学んだことを生かし、指定された売り場で売れるための商品企画を意識すること、実際に縫製工場へ職だしするため仕事してのルールや流れを習得すること

実務経験教員の経歴	オリジナルブランドの経営を12年間、ショップ経営を3年間行っていた

科目名	アパレル実習Ⅲ				
担当教員	神戸　悠太		実務授業の有無	○	
対象学科	ファッションデザイン科、 ファッション専攻科、 トータルファッション科	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	7	時間数	140時間
授業形態	対面授業のみ	対面授業と遠隔授業の併用		遠隔授業	
授業概要、目的、 授業の進め方	1.パターン・トワル制作 2.作品一体の縫製				
学習目標 （到達目標）	3年間の集大成として各自作品1体を縫製し、ファッションショー形式で発表する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	作図道具・縫製道具				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	1stパターン	平面作図①
2	1stパターン	平面作図①
3	1stパターン	平面作図②
4	トワル制作	作図写し
5	トワル制作	トワル組みたて
6	トワルチェック	トワルチェック・生地チェック
7	2ndパターン	パターン修正
8	2ndパターン	縫代付け・カット
9	縫製	裁断・芯貼り
10	縫製	部分縫い①
11	縫製	部分縫い②
12	縫製	組みたて①
13	縫製	組みたて②
14	仕上げ・修正	仕上げ・アイロン
15	作品完成	提出
16	フィッテイング	モデル試着・修正
17	作品修正	サイズなど修正
18	最終フィッテイング	最終フィッテイング
19	リハーサル	着せ付け・ウォーキングリハーサル
20	ファッションショー	ファッションショー形式で発表

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
課題：パターン/仕様書 パターン正確性40%、仕様書正確性40%、学習意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	課題は全て提出すること 最後の作品として独自性と責任感をもって制作すること

実務経験教員の経歴	オリジナルブランドの経営を12年間、ショップ経営を3年間行っていた

国際トータルファッション専門学校　シラバス

科目名	アパレル企画Ⅱ				
担当教員	神戸　悠太		実務授業の有無	○	
対象学科	ファッションデザイン科、 ファッション専攻科、 トータルファッション科	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	7	時間数	140時間
授業形態	対面授業のみ	対面授業と遠隔授業の併用		遠隔授業	
授業概要、目的、 授業の進め方	1.オリジナルブランドの立案とプレゼンテーション 2.ファッションショーでの作品発表				
学習目標 （到達目標）	ファッションショーでのコレクション発表				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	Adobe cleative cloud				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	導入	コレクションワークとは
2	ブランド企画	企画書作成作業
3	ブランド企画	プレゼンテーション前チェック
4	プレゼンテーション	プレゼンテーション審査
5	1stパターンワーク	パターン・トワル作業
6	1stパターンワーク	パターン・トワル作業
7	トワル・パターンチェック	トワルチェック
8	2ndパターンワーク	パターン修正作業
9	2ndパターンチェック	パターンチェック
10	縫製	裁断
11	縫製	芯貼り
12	縫製	パーツ縫い①
13	縫製	パーツ縫い②
14	縫製	組みたて①
15	縫製	組みたて②
16	縫製	組みたて・裏地つけ
17	縫製	組みたて・裏地つけ
18	縫製	完成提出
19	作品講評	レポート
20	まとめ	レポート提出・反省会

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
課題：企画書・デザイン画・作品 企画書の完成度20%、デザイン画のクオリティ20%、作品の完成度40%、学習意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	全ての課題を提出すること 期日を守ることを最優先し、お互いに責任を持って作品制作に当たること

実務経験教員の経歴	オリジナルブランドの経営を12年間、ショップ経営を3年間行っていた

国際トータルファッション専門学校　シラバス

科目名	アパレル企画Ⅱ				
担当教員	神戸　悠太		実務授業の有無	○	
対象学科	ファッションデザイン科、 ファッション専攻科、 トータルファッション科	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	7	時間数	140時間
授業形態	対面授業のみ	対面授業と遠隔授業の併用		遠隔授業	
授業概要、目的、授業の進め方	1.企画書制作 2.プレゼンテーション 3.デザイン描きだし				
学習目標（到達目標）	3年間の集大成として各自作品1体をデザインし、ファッションショー形式で発表する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	Adobe cleative cloud				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	導入	主旨説明・意識づけ
2	企画書制作	コンセプトワーク
3	企画書制作	ターゲット設定・リサーチ
4	企画書制作	シーズンテーマ設定
5	企画書制作	カラー・素材・ディティール設定
6	プレゼンテーション	企画会議
7	デザイン出し	ラフデザインチェック
8	1stデザインチェック	ラフデザイン修正
9	デザインチック	デザイン画清書
10	生地・グラフィック決定	グラフィックデザイン
11	縫製	裁断
12	縫製	芯貼り
13	縫製	部分縫い
14	縫製	パーツ縫い
15	縫製	組みたて①
16	縫製	組みたて②
17	縫製	仕上げ・アイロン
18	作品完成	提出
19	作品講評	レポート
20	まとめ	レポート提出・反省会

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
課題：企画書・デザイン画・作品 企画書の完成度20%、デザイン画のクオリティ20%、作品の完成度40%、学習意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	全ての課題を提出すること 期日を守ることを最優先し、お互いに責任を持って作品制作に当たること

実務経験教員の経歴	オリジナルブランドの経営を12年間、ショップ経営を3年間行っていた

科目名	パターンⅢ				
担当教員	金房　洋子		実務授業の有無	○	
対象学科	ファッション専攻科、 ファッションデザイン科	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	3	時間数	60時間
授業形態	対面授業のみ	対面授業と遠隔授業の併用		遠隔授業	
授業概要、目的、 授業の進め方	パターンメーキング検定対策と高度な平面作図を学習する。				
学習目標 （到達目標）	パターンメーキング検定２級合格				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	パターンメーキング技術検定２級ガイドブック、ジャケット・ベスト、衿				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	グレーディングの理論	２級ガイドブックP４６～５３
2	グレーディング実習	２級ガイドブックP１３２～１４３
3	グレーディング実習	２級ガイドブックP１３２～１４３
4	縫い代付け理論	２級ガイドブックP３８～４１
5	縫い代付け実習	２級ガイドブックP１１６～１３１
6	縫い代付け実習	２級ガイドブックP１１６～１３１
7	ジャケット実寸作図A	スーツ・ベストP３９～４１
8	ジャケット実寸作図A	スーツ・ベストP３９～４１
9	ジャケット実寸作図A	スーツ・ベストP３９～４１
10	ジャケット実寸作図B	２級ガイドブックP８４～９１
11	ジャケット実寸作図B	２級ガイドブックP８４～９１
12	ジャケット作図B	２級ガイドブックP８４～９１
13	ジャケット作図B	２級ガイドブックP８４～９１
14	ジャケット作図C	２級ガイドブックP８４～９１
15	ジャケット作図C	２級ガイドブックP８４～９１
16	ベスト作図A	スーツ・ベストP１６２～１６３
17	ベスト作図B	スーツ・ベストP１６４～１６５
18	衿のバリエーション作図	衿P３８～５２
19	衿のバリエーション作図	衿P５６～８０
20	衿のバリエーション作図	衿P１２６～１４０

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
授業内課題１００％ 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	製作物の仕上がりが不完全であればD評価とする場合もあるので、作図方法が合っているだけではなく、綺麗な線、曲線、各アイテムをバランス良く引くようにする。

実務経験教員の経歴	パタンナーとしてメーカーで６年、独立して２５年係わっている

科目名	パターンⅢ				
担当教員	金房　洋子		実務授業の有無	○	
対象学科	ファッション専攻科、 ファッションデザイン科	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	3	時間数	60時間
授業形態	対面授業のみ	対面授業と遠隔授業の併用		遠隔授業	
授業概要、目的、 授業の進め方	コート、袖、フードのバリエーション展開				
学習目標 （到達目標）	絵型から読み取り、平面作図を作図できるよう応用力を学ぶ				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	コート・ケープ、衿、袖				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	コートの作図A	コート・ケープP２５～３１
2	コートの作図A	コート・ケープP２５～３１
3	コートの作図A	コート・ケープP２５～３１
4	袖のバリエーション	コート・ケープP５７～６５
5	袖のバリエーション	コート・ケープP５７～６５
6	袖のバリエーション	コート・ケープP５７～６５
7	フードの作図	コート・ケープP６８～７１
8	フードの作図	コート・ケープP６８～７１
9	フードのバリエーション	衿P２０８～２１１
10	フードのバリエーション	衿P２０８～２１１
11	コートの作図B	コート・ケープP３２～３８
12	コートの作図C	コート・ケープP４３～４６
13	コートの作図C	コート・ケープP４３～４６
14	コートの作図C	コート・ケープP４３～４６
15	マントの作図	コート・ケープP１９２～１８９
16	マントの作図	コート・ケープP１９２～１８９
17	袖のバリエーション	袖P８４～９５
18	袖のバリエーション	袖P８４～９５
19	袖のバリエーション	袖P１２４～１２７
20	袖のバリエーション	袖P１８８～１８９

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
授業内課題１００％ 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	製作物の仕上がりが不完全であればD評価とする場合もあるので、作図方法が合っているだけではなく、綺麗な線、曲線、各アイテムをバランス良く引くようにする。

実務経験教員の経歴	パタンナーとしてメーカーで６年、独立して２５年係わっている

科目名	ドレーピングⅡ				
担当教員	金房　洋子		実務授業の有無	○	
対象学科	ファッション専攻科、ファッションデザイン科、トータルファッション科	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	3	時間数	60時間
授業形態	対面授業のみ	対面授業と遠隔授業の併用		遠隔授業	
授業概要、目的、授業の進め方	絵型からパターンを読み取り、トワル製作からドラフティングまでを行い、より高度な技術を習得する。				
学習目標（到達目標）	ジャケットA・Bのドレーピング、工業パターン、仕様書作成し、提出。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	立体裁断・基礎編、ジャケット・ベスト				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ボディラインチェック、生地準備	立体裁断Ｐ２９～３２
2	ジャケットAドレーピング	立体裁断Ｐ２００～２０８
3	ジャケットAドレーピング	立体裁断Ｐ２００～２０８
4	ジャケットAドレーピング	立体裁断Ｐ２００～２０８
5	ジャケットAドレーピング	立体裁断Ｐ２００～２０８
6	ジャケットAドラフティング	立体裁断Ｐ２００～２０８
7	ジャケットAドラフティング	立体裁断Ｐ２００～２０８
8	ジャケットA縫い代付け	スーツ・ベストＰ５７～６１
9	ジャケットA縫い代付け	スーツ・ベストＰ５７～６１
10	ジャケットA縫い代付け	スーツ・ベストＰ５７～６１
11	ジャケットA仕様書、指示書	プリント配布
12	ジャケットBドレーピング	立体裁断Ｐ２９～３２
13	ジャケットBドレーピング	立体裁断Ｐ２９～３２
14	ジャケットBドレーピング	立体裁断Ｐ２９～３２
15	ジャケットBドレーピング	立体裁断Ｐ２９～３２
16	ジャケットBドラフティング	立体裁断Ｐ２９～３２
17	ジャケットBドラフティング	立体裁断Ｐ２９～３２
18	ジャケットB縫い代付け	スーツ・ベストＰ５７～６１
19	ジャケットB縫い代付け	スーツ・ベストＰ５７～６１
20	ジャケットB仕様書、指示書	プリント配布

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
実習課題提出１００％ 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	製作物の仕上がりが不完全であればD評価とする場合もあるので、作図方法が合っているだけではなく、綺麗な線、曲線、各アイテムをバランス良く引くようにする。

実務経験教員の経歴	パタンナーとしてメーカーで６年、独立して２５年係わっている

科目名	ドレーピングⅡ				
担当教員	金房　洋子	実務授業の有無	○		
対象学科	ファッション専攻科、ファッションデザイン科、トータルファッション科	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	3	時間数	60時間
授業形態	対面授業のみ	対面授業と遠隔授業の併用		遠隔授業	
授業概要、目的、授業の進め方	絵型からパターンを読み取り、トワル製作からドラフティングまでを行い、より高度な技術を習得する。				
学習目標（到達目標）	モードコピーを縫い上げ完成させ提出する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	立体裁断・基礎編、ジャケット・ベスト				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	モードコピー絵型選択	選択した絵型と教科書を照らし合わせ作図していく
2	モードコピー立体裁断	平面作図、ドレーピング
3	モードコピー立体裁断	平面作図、ドレーピング
4	モードコピー立体裁断	平面作図、ドレーピング
5	モードコピー立体裁断	平面作図、ドレーピング
6	モードコピー立体裁断	平面作図、ドレーピング
7	モードコピー立体裁断	補正
8	モードコピー立体裁断	チェック、検討会
9	ドラフティング	繋がり良く引き直す
10	ドラフティング	繋がり良く引き直す
11	ドラフティング	繋がり良く引き直す
12	縫い代付け	角処理に注意し、長さチェックも行う。
13	縫い代付け	角処理に注意し、長さチェックも行う。
14	縫い代付け	角処理に注意し、長さチェックも行う。
15	縫製	縫製工程に無駄が無いように縫製してく。
16	縫製	縫製工程に無駄が無いように縫製してく。
17	縫製	縫製工程に無駄が無いように縫製してく。
18	縫製	縫製工程に無駄が無いように縫製してく。
19	縫製仕様書	プリント配布
20	まとめ	トワル、パターン提出

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
課題提出１００％ 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	製作物の仕上がりが不完全であればD評価とする場合もあるので、作図方法が合っているだけではなく、綺麗な線、曲線、各アイテムをバランス良く引くようにする。

実務経験教員の経歴	パタンナーとしてメーカーで６年、独立して２５年係わっている

科目名	就職実務 Ⅲ				
担当教員	金川　愁		実務授業の有無	×	
対象学科	ファッションデザイン科	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	２０時間
授業形態	対面授業のみ	対面授業と遠隔授業の併用		遠隔授業	
授業概要、目的、授業の進め方	1、就職の面接練習　2、企業研究の方法を知る　3、エントリーシート対策				
学習目標（到達目標）	ファッション業界の就職活動において企業研究が出来自己ＰＲ面接に活かせるようになる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	自己PR文章作成１	エントリーシート・履歴書用自己ＰＲの作成
2	自己PR文章作成２	エントリーシート・履歴書用自己ＰＲの作成
3	自己PR文章作成３	エントリーシート・履歴書用自己ＰＲの作成
4	ＧＤ対策１	ＧＤ対策授業面接練習
5	ＧＤ対策２	ＧＤ対策授業面接練習
6	ＧＤ対策３	ＧＤ対策授業面接練習
7	グループ面接対策１	グループ面接実践
8	グループ面接対策２	グループ面接実践
9	グループ面接対策３	グループ面接実践
10	グループ面接対策４	グループ面接実践
11	メールのマナー・添え状・お礼状など	メールでの文章作成の基本。添え状テンプレ作成
12	企業リストアップ１	企業研究を深め企業を絞り込む
13	企業リストアップ２	企業研究を深め企業を絞り込む
14	適性検査の基本	適性検査について評価のポイント
15	ＳＰA対策	SPA試験対策指導
16	社会人マナー検定対策１	社会人常識マナー検定対策授業
17	社会人マナー検定対策２	社会人常識マナー検定対策授業
18	社会人マナー検定対策３	社会人常識マナー検定対策授業
19	社会人マナー検定対策４	社会人常識マナー検定対策授業
20	社会人マナー検定対策５	社会人常識マナー検定対策授業

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
社会人常識マナー検定模擬試験での評価 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	特になし

実務経験教員の経歴	セレクトショップにてFAを7年間、販売、VMD業務に関わっていた

科目名	就職実務 Ⅲ				
担当教員	金川　愁		実務授業の有無	×	
対象学科	ファッションデザイン科	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	２０時間
授業形態	対面授業のみ	対面授業と遠隔授業の併用		遠隔授業	
授業概要、目的、授業の進め方	1、就職の面接練習　2、企業研究の方法を知る　3、エントリーシート対策				
学習目標（到達目標）	ファッション業界の就職活動において企業研究が出来自己ＰＲ面接に活かせるようになる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	社会人常識マナー検定対策６	社会人常識マナー検定対策授業
2	社会人常識マナー検定対策７	社会人常識マナー検定対策授業
3	社会人常識マナー検定対策８	社会人常識マナー検定対策授業
4	内定者／他課題制作授業　　未内定者／個別指導	内定者は他科目の課題制作授業　未内定者個人指導面談
5	内定者／他課題制作授業　　未内定者／個別指導	内定者は他科目の課題制作授業　未内定者個人指導面談
6	内定者／他課題制作授業　　未内定者／個別指導	内定者は他科目の課題制作授業　未内定者個人指導面談
7	内定者／他課題制作授業　　未内定者／個別指導	内定者は他科目の課題制作授業　未内定者個人指導面談
8	内定者／他課題制作授業　　未内定者／個別指導	内定者は他科目の課題制作授業　未内定者個人指導面談
9	内定者／他課題制作授業　　未内定者／個別指導	内定者は他科目の課題制作授業　未内定者個人指導面談
10	内定者／他課題制作授業　　未内定者／個別指導	内定者は他科目の課題制作授業　未内定者個人指導面談
11	内定者／他課題制作授業　　未内定者／個別指導	内定者は他科目の課題制作授業　未内定者個人指導面談
12	内定者／他課題制作授業　　未内定者／個別指導	内定者は他科目の課題制作授業　未内定者個人指導面談
13	内定者／他課題制作授業　　未内定者／個別指導	内定者は他科目の課題制作授業　未内定者個人指導面談
14	内定者／他課題制作授業　　未内定者／個別指導	内定者は他科目の課題制作授業　未内定者個人指導面談
15	内定者／他課題制作授業　　未内定者／個別指導	内定者は他科目の課題制作授業　未内定者個人指導面談
16	内定者／他課題制作授業　　未内定者／個別指導	内定者は他科目の課題制作授業　未内定者個人指導面談
17	内定者／他課題制作授業　　未内定者／個別指導	内定者は他科目の課題制作授業　未内定者個人指導面談
18	内定者／他課題制作授業　　未内定者／個別指導	内定者は他科目の課題制作授業　未内定者個人指導面談
19	内定者／他課題制作授業　　未内定者／個別指導	内定者は他科目の課題制作授業　未内定者個人指導面談
20	内定者／他課題制作授業　　未内定者／個別指導	内定者は他科目の課題制作授業　未内定者個人指導面談

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
社会人常識マナー検定模擬試験での評価 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	特になし

実務経験教員の経歴	セレクトショップにてFAを7年間、販売、VMD業務に関わっていた

科目名	卒業制作				
担当教員	神戸　悠太		実務授業の有無	○	
対象学科	ファッションデザイン科、ファッション専攻科	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	20時間
授業形態	対面授業のみ	対面授業と遠隔授業の併用		遠隔授業	
授業概要、目的、授業の進め方	1.パターン・トワル制作 2.作品一体の縫製				
学習目標（到達目標）	3年間の集大成として各自作品1体を縫製し、ファッションショー形式で発表する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	作図道具・縫製道具				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	1stパターン	平面作図①
2	1stパターン	平面作図①
3	1stパターン	平面作図②
4	トワル制作	作図写し
5	トワル制作	トワル組みたて
6	トワルチェック	トワルチェック・生地チェック
7	2ndパターン	パターン修正
8	2ndパターン	縫代付け・カット
9	縫製	裁断・芯貼り
10	縫製	部分縫い①
11	縫製	部分縫い②
12	縫製	組みたて①
13	縫製	組みたて②
14	仕上げ・修正	仕上げ・アイロン
15	作品完成	提出
16	フィッテイング	モデル試着・修正
17	作品修正	サイズなど修正
18	最終フィッテイング	最終フィッテイング
19	リハーサル	着せ付け・ウォーキングリハーサル
20	ファッションショー	ファッションショー形式で発表

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
課題：パターン/仕様書 パターン正確性40%、仕様書正確性40%、学習意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	課題は全て提出すること 最後の作品として独自性と責任感をもって制作すること

実務経験教員の経歴	オリジナルブランドの経営を12年間、ショップ経営を3年間行っていた

国際トータルファッション専門学校　シラバス

科目名	卒業制作				
担当教員	神戸　悠太		実務授業の有無	○	
対象学科	ファッションデザイン科、ファッション専攻科	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	20時間
授業形態	対面授業のみ	対面授業と遠隔授業の併用		遠隔授業	
授業概要、目的、授業の進め方	1.パターン・トワル制作 2.作品一体の縫製				
学習目標（到達目標）	3年間の集大成として各自作品1体を縫製し、ファッションショー形式で発表する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	作図道具・縫製道具				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	1stパターン	平面作図①
2	1stパターン	平面作図①
3	1stパターン	平面作図②
4	トワル制作	作図写し
5	トワル制作	トワル組みたて
6	トワルチェック	トワルチェック・生地チェック
7	2ndパターン	パターン修正
8	2ndパターン	縫代付け・カット
9	縫製	裁断・芯貼り
10	縫製	部分縫い①
11	縫製	部分縫い②
12	縫製	組みたて①
13	縫製	組みたて②
14	仕上げ・修正	仕上げ・アイロン
15	作品完成	提出
16	フィッテイング	モデル試着・修正
17	作品修正	サイズなど修正
18	最終フィッテイング	最終フィッテイング
19	リハーサル	着せ付け・ウォーキングリハーサル
20	ファッションショー	ファッションショー形式で発表

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
課題：パターン/仕様書 パターン正確性40%、仕様書正確性40%、学習意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	課題は全て提出すること 最後の作品として独自性と責任感をもって制作すること

実務経験教員の経歴	オリジナルブランドの経営を12年間、ショップ経営を3年間行っていた

科目名	クチュールテクニック制作				
担当教員	中村　恵美子		実務授業の有無	○	
対象学科	ファッションデザイン科	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	3	時間数	60時間
授業形態	対面授業のみ	対面授業と遠隔授業の併用		遠隔授業	
授業概要、目的、授業の進め方	1、ドレスについての基礎知識　2、素材別の縫製方法や装飾手芸 3、オリジナルレース制作　4、ヘッドドレス制作				
学習目標（到達目標）	ウエディングドレスで用いられているビーズや刺繍などの装飾手芸のテクニックやレースなど特殊な生地の縫製仕様を習得。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布プリント				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	フォーマットドレスについて	前期授業説明、導入、ドレスについて説明
2	縫い代始末方法①	素材配布、ギャザー、ピンタック、三巻、メロー方法
3	縫い代始末方法②	パイピング、ジグザグ縫い
4	CCファスナー	CCファスナー配布
5	糸ループ、布ループ作成①	糸、布配布
6	糸ループ、布ループ作成②	糸、布配布
7	くるみ釦、網上げ手法	くるみ釦配布、くるみ用生地準備
8	コードレース、ピコミシン①	生地準備、配布
9	コードレース、ピコミシン②	生地準備、配布
10	オリジナルレース制作①	素材、レース配布
11	オリジナルレース制作②	素材、レース配布
12	アートフラワー制作	素材配布
13	ビーズワーク	ビーズ配布
14	各部位の補強方法	生地配布
15	袖山、ボーンの入れ方	ボーン配布
16	ヘッドドレス製作①	生地、付属準備
17	ヘッドドレス製作②	手順、仕様方法を考え制作
18	ヘッドドレス製作③	手順、仕様方法を考え制作
19	ヘッドドレス製作④	手順、仕様方法を考え制作
20	ヘッド完成、提出	まとめ作業

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
ジャケット５０％、ビスチェ５０％ 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	製作物の仕上がりが不完全であればD評価とする場合もあるので、縫製・アイロンは丁寧に行う事。

実務経験教員の経歴	アパレルメーカー6年、ファッション専門学校で教務に28年間係わっていた。

科目名	クチュールテクニック制作				
担当教員	河村　真美		実務授業の有無	○	
対象学科	ファッションデザイン科	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	3	時間数	60時間
授業形態	対面授業のみ	対面授業と遠隔授業の併用		遠隔授業	
授業概要、目的、授業の進め方	企画、デザイン、プレゼンテーション、パターン製作から縫製までを行い、ドレス一体を製作する。				
学習目標（到達目標）	ウエディングドレスの制作に不可欠なドレーピングテクニックも習得をし、デザイン性の高い製作ができるように技術を養う。素材・ディティールからトレンドを盛り込んだデザインを起こし制作に入る。指示書・仕様書を用いる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ブラウス・ワンピース、ジャケット・ベスト、コート・ケープ、ビスチェ				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	企画、アイデア出し	必ず一人１つ提案する事。
2	コンセプト決め	テーマを理解し、コンセプトを決める事。
3	グループ別パワーポイント作成	役割を決めスムーズに作成する事。
4	グループ別パワーポイント作成	役割を決めスムーズに作成する事。
5	デザイン画、素材探し	出来るだけ多くのデータ、素材、画像を集める事。
6	デザイン画、素材探し	出来るだけ多くのデータ、素材、画像を集める事。
7	トワル組	シーチング、似寄り生地で組立て
8	トワル組	シーチング、似寄り生地で組立て
9	トワル組	必ず中間チェックをすること。
10	トワル組	組立て時、縫製をの細かい仕様面も考える事。
11	モデル採寸、パターン修正、用尺出し	生地不足にならないようにマーキング注意する。
12	モデル採寸、パターン修正、用尺出し	生地の素材に合わせてアイロン注意する。
13	裁断、芯貼り	生地の素材に合わせてアイロン注意する。
14	裁断、芯貼り	生地の素材に合わせてアイロン注意する。
15	パーツ作り	寸法、ステッチ、運真数、ツレ、中間アイロンに注意
16	パーツ作り	寸法、ステッチ、運真数、ツレ、中間アイロンに注意
17	パーツ作り	寸法、ステッチ、運真数、ツレ、中間アイロンに注意
18	組立て	組立ての順序よく考えて縫製していく。
19	組立て	組立ての順序よく考えて縫製していく。
20	まとめ、提出	仕上げアイロン特に注意してかける事。

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
授業内課題１００％ 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	製作物の仕上がりが不完全であればD評価とする場合もあるので、縫製・アイロンは丁寧に行う事。

実務経験教員の経歴	アパレル企業でソーイングオペレーターを３年半、ファッション専門学校の教員に7年係わっていた。